



直球、健在。

戦後最長の、熱く、長い国会が終わりました。安全保障法制を巡る議論は、総理や大臣が答弁出来ないことが、たびたび起こるという異例な国会でした。憲法学者や、最高裁長官経験者など、専門家が憲法違反、あるいはその疑いが濃いと言う中で、野党第一党、民主党は、徹底的に論戦を行いました。議論すればするほど、問題が多いことが明らかになりました。国民の8割が政府の説明不十分と答え、今国会での採決に6割の人々が反対しました。しかし、最後は数の力で、押し切られてしまい、代表として力が足りなかったことに強く責任を感じています。

私の主張

MY OPINION

しかし、本当に大切なのはこれからです。憲法の平和主義、そして、それだけではなく、立憲主義、民主主義が揺らいでいるという厳しい状況です。安倍総理は、憲法改正を目指すことを明言しています。本命は第9条です。これから3年間の任期の中で、日本のありようが大きく変えられる可能性があります。

安倍政権の暴走を止める、そのために、今回の参議院選挙は負けるわけにはいきません。民主党代表として、日本の平和主義、そして民主主義を守るために決意を新たにしているところです。

衆議院議員 岡田かつや

国会



【代表質問】2月16日

安倍総理の施政方針演説に対する本会議代表質問。経済のグローバル化の中で、格差社会が世界全体で広がっている。日本も過去20年で先進国の中でも格差の大きな国になってしまった。特に子どもの貧困の問題が深刻になっていると指摘しました。



【党首討論】5月20日、6月17日

2回の党首討論で、私が直球勝負で挑んだのに対し、安倍総理からまともな答弁はありませんでした。

【安全保障法案反対討論】7月16日

政府案が国民の理解を得ることができなかったことを率直に認め、直ちに法案を撤回するよう求めました

【安倍内閣不信任案賛成討論】9月18日

衆参両院での200時間を超える審議の中で、法案の矛盾が明らかになり、政府の答弁も場当たり的で説得力のないものである。立憲主義、民主主義、平和主義の否定に他ならない。安倍総理の暴走を到底認めることはできない、と安倍内閣の即時退陣を迫りました。

【安保法制特別委員会】

合計3回、200分質問に立ちました。事前に通告しても、基本的なことすら答えられない総理答弁は本当に残念でした。



野党連携

野党が協力してやっていくということが、次の参議院選挙では非常に重要です。維新の党との連携強化に向けた枠組みとして、「連携協議会」を設置することを合意し、野党結集に向けてしっかりと民主・維新両党が引っ張っていくことを確認しました。

共産党、社民党、その他野党とも、候補者がバッティングしないよう調整し、自民党を利用することのないようにすることは極めて重要です。



【維新の党との党首会談】9月25日



【共産党との党首会談】9月25日



強行採決前に事務所に届いた数えきれないFAX。法案反対、激励のお手紙を一枚一枚読ませていただきました。



KATSUYA'S NOTE

野党再編の話が出てきました。維新の党が分裂し、民主党以外は、小さな存在になってしまいました。そういった中で、新しい党を結成すべきではないかという議論です。まず大事なことは、巨大な党に対して対抗できる、そのために力を合わせなければならないことです。選挙での協力などは不可欠です。

それに加えて、党を1つにするかどうかというのは、お互い、その党で最後まで、しっかりと政権交代を目指して、頑張り切れるかどうか、そのための政策や理念の合意はあるのか、そして、一人ひとりの議員に覚悟はあるのか、ということが

重要だと思います。

単に、バラバラになったものを、覚悟もなく選挙に有利だからという理由だけで、1つにまとめるというのは、本当の意味での力にはなりません。国民の期待も出てこないと思います。変わる時には大きく変わる、そのためには、一人ひとりが覚悟を持つ。そこが基本だと思っています。

共産党については、立憲主義、民主主義を守るために協力することは重要ですし、候補者の調整も必要です。しかし、政権を共にするということになる、政策理念が一致するという観点で、ハードルは高いと思っています。

東奔西走

【代表就任】1月18日

臨時党大会で代表に選出される。国民の皆さんの信頼を取り戻す、そしてしっかりと国会で論戦する、存在感を発揮していく。政権交代を目指す状態をまず作り出す、そのために全力を挙げたいと思います。



【安倍政権の暴走を止める全国キャンペーン】5月20日～

新宿を皮切りに、全国各地で街頭演説をし、安倍政権の暴走にストップをかけることを訴えました。



【派遣法阻止行動】6月12日

「国会前怒りの座り込み行動」に駆けつけ、労働者派遣法の改悪阻止に向け、引き続き戦っていく決意を訴えました



【国会正門前行動】8月30日～

連日開かれた市民団体の国会正門前集会。戦争経験のある方々、子どもを連れて若い夫婦、学生など、今まで政治とは少し距離を置いていた人も含めて、本当に多くの方が危機感を持って結集しました。



街頭演説

【東北】1月31日

震災後4度目の大船渡と陸前高田を訪問。新鮮な魚が水揚げされ、活気を取り戻した港を見て、嬉しくなりました。私の目のことを心配していただき、被災地に行くこと、逆に励まされたりすることもあります。



【福島第一原発】2月23日

東京電力福島第1原子力発電所を訪れ、廃炉に向けた作業や汚染水対策の作業状況を確認するとともに、作業に当たる職員の皆さんを激励しました。



【茨城豪雨被災地】9月14日

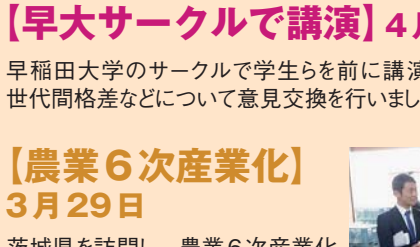
台風18号による記録的な豪雨で甚大な被害が発生した茨城県常総市を訪れ、高杉徹市長から今後の対応に関する要望を聞き取るともに、避難所を訪れ、避難されている住民の方々をお見舞いしました。



被災地訪問

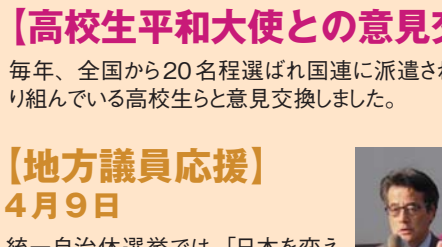
【党共生社会創造本部】2月14日

都内で24時間保育を行う認可保育園を見学し、深夜に働く親が抱える育児の課題や保育環境を巡る問題などについてお話を聞きました。共生社会創造本部長として、子どもの貧困や経済格差の是正に向けて、数々の現場視察を行いました。



【高校生との交流】4月24日、6月27日

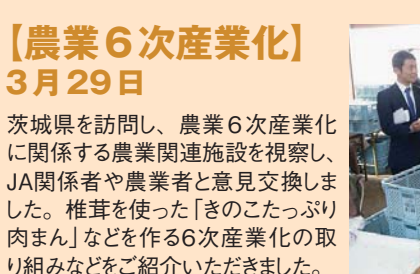
運動代表代行とともに都内の女子高と愛知県の私立高校を訪問し、意見交換。若者達の政治に対する関心の高さに驚かされます。



子ども若者

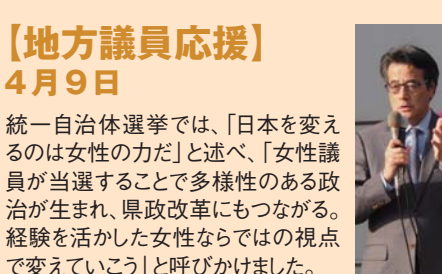
【早大サークルで講演】4月15日

早稲田大学のサークルで学生らに前に講演。若者の政治参画、世代間格差などについて意見交換を行いました。



【高校生平和大使との意見交換】6月1日

毎年、全国から20名選ばれ国連に派遣される、平和運動に取り組んでいる高校生らと意見交換しました。



地方

【農業6次産業化】3月29日

茨城県を訪問し、農業6次産業化に関する農業関連施設を視察し、JA関係者や農業者と意見交換しました。椎茸を使った「きのこたっぷり肉まん」などを作る6次産業化の取り組みなどをご紹介いただきました。



【地方議員応援】4月9日

統一自治体選挙では、「日本を変えるのは女性の力だ」と述べ、「女性議員が当選することで多様性のある政治が生まれ、県政改革にもつながる。経験を活かした女性ならではの視点で変えていこう」と呼びかけました。



【沖縄慰霊の日】6月23日

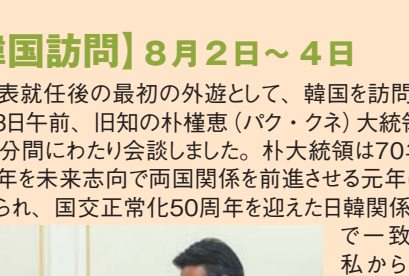
沖縄戦から70年の「慰霊の日」を迎えた沖縄全戦没者追悼式、ひめゆりの塔で行われた慰霊祭に参列。沖縄戦で亡くなられた方々への哀悼の意を表しました。



【原爆死没者追悼慰霊式典】8月6日

【長崎平和記念式典】8月9日

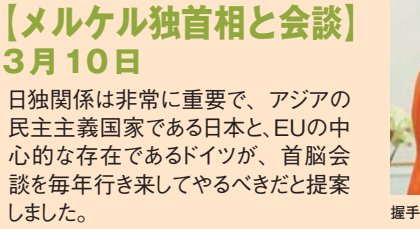
6日広島では、平和記念式典と原爆死没者追悼慰霊式典に出席し、9日長崎では、平和公園で営まれた慰霊平和祈念式典に参列。民主党代表として献花を行い、原爆死没者への慰霊と世界の恒久平和への祈りを込めて黙とうを捧げました。また、原爆投下70年にあたっての代表談話の他、70回目の終戦の日、そして安倍総理談話について、それぞれ私の談話を発表しました。



戦後70年

【韓国訪問】8月2日～4日

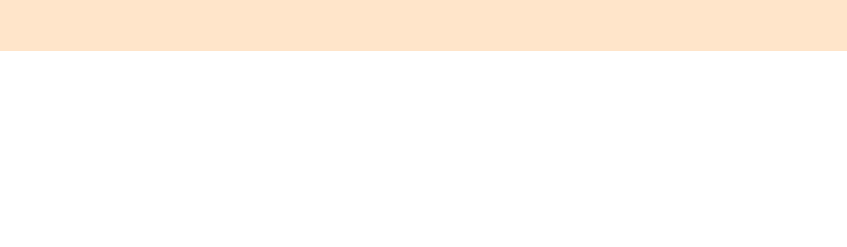
党代表就任後の最初の外遊として、韓国を訪問してきました。3日前午、旧知の朴槿恵（パク・クネ）大統領と、およそ40分間にわたって会談しました。朴大統領は70年、50年の本年を未来志向で両国関係を前進させる元年にしたいと述べられ、国交正常化50周年を迎えた日韓関係の重要性で一致しました。私からは、早期に、無条件で、定期的な首脳会談を行うことを提案しました。この他、歴史認識問題や安全保障法制など、幅広く意見を交わすことができました。



外交

【木質バイオマス発電視察】9月7日

地元へ帰った合間をぬって、松阪市にある木質バイオマス発電を視察しました。木材（間伐材）をチップ化したものを原料にして、電力を発電し、電力会社に売るというビジネスモデルです。CO2（二酸化炭素）を出さない発電を行うこと、森林の整備とともに推進できますので、その広がりを期待したいと思います。



地元

熱論

今、国民の皆さんの最大の関心事である集団的自衛権と日本経済の今後、そして来年の参議院選挙に向けて、岡田かつやと芝ひろかずさんがその思いを熱く語ります。



衆議院議員・民主党代表

岡田かつや
katsuya okada



参議院議員・元 内閣官房副長官

芝ひろかず
hiroказu shiba

PROFILE

■芝ひろかず

昭和25年生まれ、65歳。皇學館大学文学部卒、椿大神社の神職に就く。1995年三重県議会議員初当選。2004年参議院議員初当選。2010年参議院議員再当選。内閣総理大臣補佐官、内閣官房副長官を歴任。現在は三重県連代表、懲罰委員長、内閣委員会、政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員を務める。趣味は、映画鑑賞、読書、旅行、ゴルフ。信条は「有言実行」。

政治の暴走を止める
大きなうねりを
三重県から巻き起こす

権力の暴走を許さない ——これからの戦いの始まりだ

岡田：長かった国会も終わりました。安全保障法制が最大の焦点で、色々な問題が、この間提起されましたが、芝さんは何が最大の問題だったと思いますか？

芝：私は、今回の安保法案を振り返って、大きく分けると「不適合の問題」「不十分の問題」「不誠実の問題」があったと思います。

一つは、憲法違反だと言われていた部分。次に総理並びに大臣の説明、答弁が不十分という点。もう一つの不誠実というのは、まともに正面から総理以下大臣が質問に答えないという点。この3つに象徴されたと思っています。

岡田：確かに200時間を越える議論がありました。国会は衆参ともに100回以上止まって、議論すればするほど分かんなくなりました。

最初から最後まで、国民の皆さんの8割が、政府は説明不十分、これだけ時間を費やしながら国民の皆さんに理解されなかったということは、安全保障法案は、一旦撤回すべきだったと思っています。

芝：おっしゃる通りだと思います。聞けば聞くほど、わからなくなる。昨日言っていたことが今日には答弁が変わっていく、また、総理と大臣とで答弁が違うという、この不合理さが、国民には非常に分かりづらかったのではないかと思います。

岡田：そういう中で、憲法違反の立法であるとして、我々だけではなく、歴代の内閣法制局長官経験者や憲法学者、あるいは最高裁判所の長官経験者までもが言ったわけです。こういった憲法違反しないしは非常に疑いが濃い法案を押し切った成立させたということは、私は、極めて問題だと思っています。

芝：国民の一番の怒りは、そこにあるのだと思っています。権力を縛るための憲法を勝手に解釈している。この部分が、一番大きな国民の怒りの根拠になっているのだと思っています。

岡田：今までは、日本自身が攻撃を受けた時に初めて、反撃が来ました。これは、個別的自衛権として憲法で認められていました。しかしこれからは、日本自身が攻撃を受けていなくても、例えば同盟国の米国が攻撃を受けていれば、日本もわざわざ出て行って、一緒に戦うことが出来る。これが政府の言う集団的自衛権です。憲法の平和主義が根本的に変わった。それが、ほとんど議論もなく行われたということに非常に問題がある。

芝：専守防衛の自衛隊という考えは、私達だけに限らず、国民の皆さんにも70年間しっかりと根付いてきたし、その根底の考えの中にあるのだと思います。憲法学者や、大学の教授のみならず、一般の皆さん方も、新たな世界に踏み出すことイコール、それは戦争に繋がるということで、あれだけ年齢・性別・職業を問わず、多くの方が、東京のみならず、全国で声を挙げました。

岡田：一部に、憲法論に集中するあまり、安全保障の議論が不足していたという議論があります。私は、そもそも総理に議論する気があったのか、と思うわけです。10本の法案を1つにまとめて、1本の法案にして出してきました。例えば、PKOとか、日本近隣の有事に対する対応とか、すべてが1つの法案になっていますから、結局、議論は発散し、十分な議論がなされないまま終わりました。衆参合わせて200時間の議論といっても、10本の法律ですから、1本あたり20時間しか議論出来ていないわけです。

芝：安倍政権の体質は、今回のみならず、一昨年の特定秘密

保護法案の時も、数を背景にした強行的な採決によってまはつきり示されました。

岡田：最近、今まで政治に関心のなかった人たちが、国会の周辺に何万人と来ていただいて、戦争経験した高齢者、赤ちゃんを連れた若い夫婦・お母さん、大学生、高校生が危機感を持って、自分の判断で集まって抗議の声を挙げた。これは今までになかったことであり、日本の新しい民主主義の始まりになるきっかけと思っています。

芝：私もそのデモに入り、声を聞き、本当に心の震える思いになりました。年齢・性別を問わず、暑い夏の炎天下の中で、がんばっている人がいる。また夜もがんばっている人がいる。大雨の中でも、雨具を着て声をからしている。涙を流しながら叫んでいる、訴えている。その姿に非常に心を打たれました。

岡田：安全保障関連法案が、数の力で強行採決されましたが、これで終わったわけではなく、戦いの始まりだと思っています。憲法の平和主義を守り抜いて行くために、日本の民主主義という観点からも、これからが大事だと思います。参議院で、我々が過半数を取れば、自衛隊を海外へ派遣する承認を国会で得ようとしても、参議院で否決することができます。ですから、参議院選挙で我々がいかに勝つかということが重要になる。

芝：来年7月に向けて参議院選挙を戦わせていただくわけですが、この安保法案の廃止を最大のテーマにして国民・県民の皆さんに訴えていきたいですし、三重県の中にも同じ思いを持った多くの県民の方がいらっしゃるから、その皆さんと波長を合わせながら、また、声を合わせながら、運動を大きく大きく展開していきたい。参議院選挙に勝つことにより、この安保法にストップが掛けられることを県民に伝えていきたいです。



暮らしを良くする政治 ——人に対する投資こそ必要

岡田：アベノミクスが華々しく登場しましたが、株は一時的に上がり、一部の輸出関連企業の利益も上がったものの、それは、非常に限定されており、国民全体で見れば、むしろ物価の上昇に賃金が追いついていない中で、景気は停滞しています。

芝：東京での国会活動と地元での活動をやる中で、この格差というのは非常に肌で感じています。東京では、一昔前のパブルのような、雰囲気があります。しかし一旦、三重県に帰ってきたり、地方に行くと、やっぱり地方や人は疲弊しています。特に、円安で輸入物価が

上がっているということで、地元の人達、中小企業の人達から、格差が拡大しているとか、経営が大変だということを県内各地から聞きます。

岡田：アベノミクスで経済や生活が良くなれば良いのですが、そういった実体はないということだと思います。

日本の経済成長に何が必要か？安倍総理は、次元を越えた金融緩和、財政出動ということですが、短期的な政策よりも、より重要なのは、人への投資だと私は思います。資源もない。国土も狭い。こういう日本にあって人を大事にし、人に投資をし、人が能力を発揮することで、日本自身が豊かになっていく。これは、民主党の基本的な考えですが、今こそ、「人への投資」が、もう一度、見直されなくてはいいなと私は思います。

芝：同感です。人にやさしい政治というのを目指していきたい。また、今回の参議院選挙を通じて訴えていきたいと思っています。

一昔前に、日本は、国民総中流時代と言われた時がありましたが、それが段々こぼれて行って格差が広がってきている。やっぱり、ここの中間層を分厚くすることによって、個人の消費も増え、国民が働きがいをもって力強く生活していけると思います。そのためには、人に投資を行わなくてはならないと思います。

地域を元気に！ ——これからの三重

岡田：芝さんは、名張で生まれ、伊勢で学び、今、鈴鹿で生活しておられるわけですが、芝さんにとって三重県とはどういう県ですか？

芝：三重県は、経済から観光を含めて、何もかもが中位県と

いう感覚の県で、東京とか、他県から見ると存在が薄いということも聞きます。三重県には立派な観光施設もあれば名所もありますから、知名度を上げることは大事だと思っています。

岡田：観光資産としては凄いのを持っていると思います。伊勢神宮とか伊勢志摩、熊野含めてですが、それが十分に活かされていないと思うのです。そういった意味では、今度の伊勢志摩サミットは世界にも発信できる良い機会だと思います。

芝：伊勢志摩サミットは良い機会だと思います。しかし、欲張りすぎるのではなく、やっぱり日本での知名度をまず上げる。あわせて海外での知名度も上げられと思っています。

岡田：全体的に見れば、三重県は恵まれた所だと思います。どちらかと言えば貪欲ではなく、おっとりしたところがある

のかもしれない。それぞれの地域の特色を活かして頑張ってもらいたいです。

芝：雪深いわけでもなく、温暖で気候も良く、自然にも恵まれています。交通の便も名古屋であったり大阪であったり非常に便利でもあり、人情的に非常に良いわけですから、今、国内外の観光客に人気の中部から能登半島までの昇龍道ルートのような、伊勢志摩から奈良、京都を結ぶ、日本の原点を訪れるような観光ルートを開発するなどの工夫が必要だと思います。

来夏の参議院選挙に向けて

岡田：次の参議院選挙まで1年を切りました。安倍政権の暴走を止めるためにも、そして民主党再生の足かりのためにも非常に重要な選挙だと思います。芝さんが特に訴えたいことは何でしょうか？

芝：まずは、お話ししました安保法、これは諦めることなく、私達は反対を訴え続けていきます。それも県民、国民のみならず連帯運動して。参議院選挙で、芝が勝つことが出来、全国でも、野党が与党の議席数を上回れば、国会承認を否決することで自衛隊の海外での武力行使を止めることができます。そのことをしっかりと皆様方に訴えていきたいです。もう一つは、今、地方と人が疲弊している。政治の流れを大きく地方と人に対する政策に変えることを訴えていきたいと思っています。

岡田：芝さんという武闘派というイメージがかなり浸透していますけれども、実は菅内閣の内閣総理大臣補佐官、野田内閣では内閣官房副長官として国家の中核で仕事をして来た経験をお持ちです。そういった経験を今後の政治活動にどのように活かしていきたいと思われますか？

芝：総理大臣補佐官をしたときには、東日本大震災のその中で、その現地の声を聞き、対応する仕事を最前線でやらせていただきました。災害に対する対応を常日頃から怠ってはならないということ、身をもって経験させていただきました。未だに復興の途中です。この復興をいかに、現地の皆様と寄り添って一日も早くすること、これが一つです。

もう一つは、例えば、この三重県ですと、南海トラフ地震が予想されていますが、それに対する備えを、国任せだけでなく自助・公助・共助を含め、しっかりやっていなくてはならない。他人任せでは災害は防げないと思います。

総理補佐官、官房副長官をさせていただき、本質的な政治の流れを身をもって体験させていただきましたが、その中で、国家の権力が暴走することの怖さを実感しました。国民の知る権利を奪う、特定秘密保護法は、やっぱりおかしいし、国民の知る権利は、しっかりと保障しないといけない。

岡田：これから一日一日が大事になります。有権者の皆様にしっかりと訴えていただきたい。政治活動をするにあたって特に有権者の皆様一言お願いします。

芝：とにかくお会いをして、直に訴えさせていただきたい。そして声を聞かせていただきたい。それが、一人でも多くの人々ということを目指していきたいと思っています。

岡田：是非、みなさん、芝さんを見たら声をかけてみてください。非常にハートの温かい人間であることを実感されると思います。

私の近況



12月、2月と2回立て続けに網膜剥離を患い、ようやく快復基調にあります。左目の方は、めがねをかけて、0.5ということで、十分とは言えませんが、右目の方は1.0まで見る事ができますので、生活に大きな支障はありません。大変ご心配をかけました。

私は、すぐにハードな日程にしてしまうクセがあります。再発しないように、あるいは右目が網膜剥離になら

ないように、自戒しながら、少しペースを落としつつ、メリハリをつけて仕事をしているところです。

仕事柄、仕方がないとはいえ、近くでフラッシュをたかれることが非常に多く、先日とも突然、2～3mのところでフラッシュを何回もたかれて、ヒヤリとしました。

目が悪くなって、こういう立場になって、いろいろな障害のある方々大変さというのが、少しわかった気がします。

通

後

信

援

会

●個人献金のお知らせ

岡田かつやの政治理念に賛同し、個人の立場で財政面からサポートしていただける方からの献金を随時お受けしています。詳細は、下記のホームページをご覧ください。

<https://www.katsuya.net/donation/index.html>

bl

岡田かつやブログ

TALK ABOUT

katsuya.weblogs.jp

メールマガジン「かつやNEWS」

www.katsuya.net/news.html

(メールで無料配布中のこの機会にぜひご登録を！)

岡田かつや公式

Facebookページ

<http://www.facebook.com/katsuyaokada>

このたび、岡田かつやの公式フェイスブックページを開設しました。ブログ記事、イベント情報、動画、写真などを随時掲載していきますので、是非ご覧ください。

政治の中心にいて感じingことを率直に語るのがこのブログです。日々取り組んでいる政策の中身や政治活動に加えて、海外出張の報告や地元での活動など、岡田かつやの日常が満載。ご意見も随時募集中心!